

このまちで暮らす



Shobara





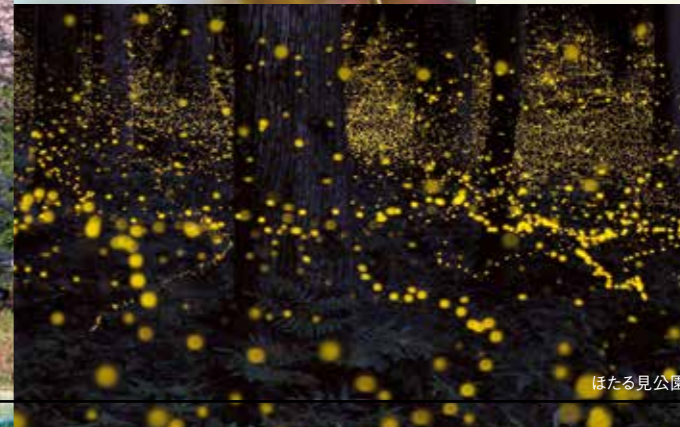
上野池 冬の朝



千鳥別尺のヤマザクラ



節分草



ほたる見公園



比和の棚田

生まれ育った故郷は、懐かしくて落ち着く場所でもあり、どこか物足りなさを感じてしまう場所でもあります。
 刺激や可能性を求めて広い世界へ飛び出し、忙しくも充実した日々を過ごす中、ふと思い出すのはやっぱり故郷。
 庄原の景色とともに脳裏に浮かぶ家族や友達との楽しい日々は、これからのあなたの原動力となるでしょう。
 そして、ここ庄原にも夢や希望を抱いて、キラキラと暮らしている若者がたくさんいます。
 その想いや暮らしぶりにふれることで、「庄原で暮らす」という選択肢が生まれることを願います。

Contents

- 03 / story1 flower&café hanatojyo 山岡 翼さん
- 05 / story2 小学校英語指導者 松井 理恵さん
- 07 / story3 長曾観光りんご園 長曾 勇樹さん
- 09 / story4 ヤギネットワークひろしま 入瀬 瞳さん
- 11 / ママたちの本音座談会
- 13 / 教えて！パイセン!! 仕事のやりがい
- 14 / 庄原あるある



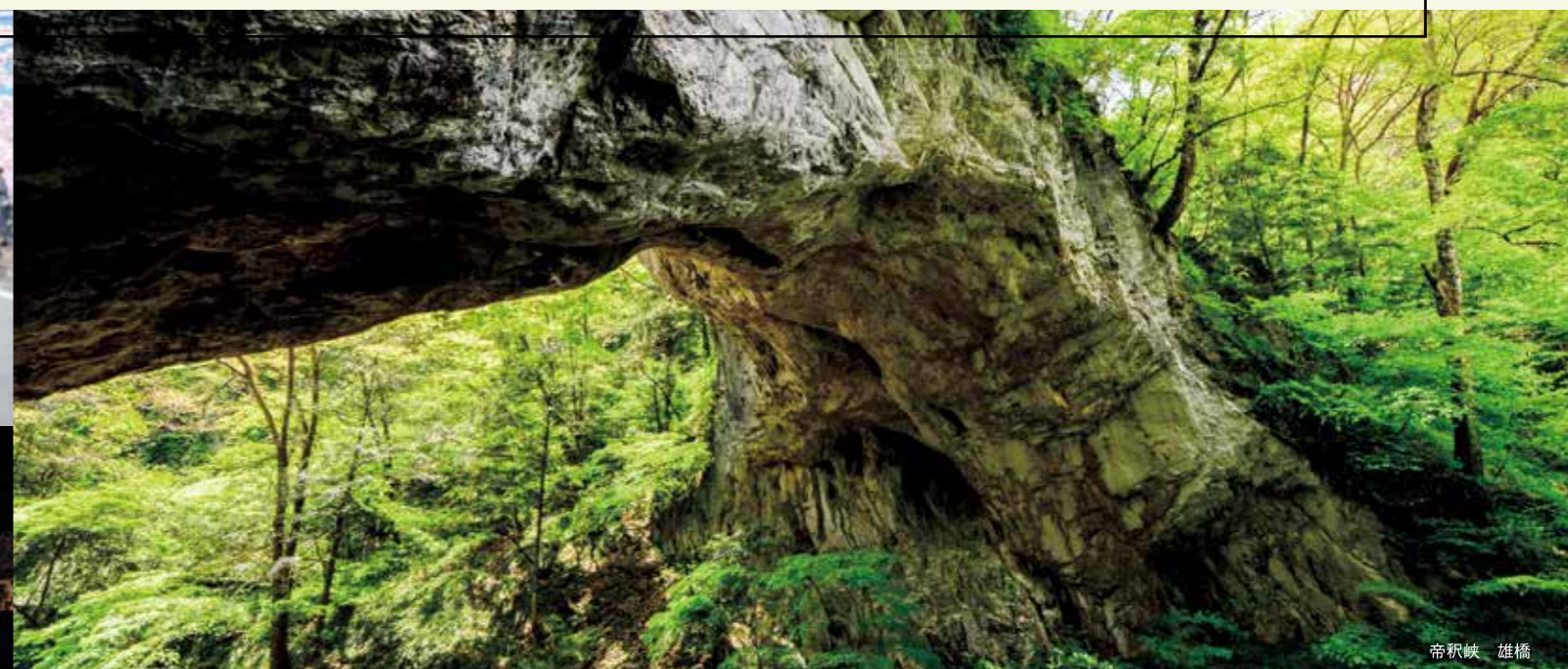
国営備北丘陵公園 春のスイセン



東城町伝統行事 お通り



西城の夏



帝釈峽 雄橋



Story 1

東城でお店ができるのは
たくさんの人の協力があったからこそ

flower & café
hanatojyo

山岡 翼さん
Tsubasa Yamaoka

hanatojyo
ハナトウジョウ

〈住所〉
庄原市東城町東城133-1

〈TEL〉
08477-2-3555

〈営業時間〉
9:00~17:00
(金土曜は9:00~17:00、19:00~LO22:00)

〈定休日〉
日曜、第2・4月曜



10年間のキャリアを積んでいざ独立! オープンする場所に悩むご主人を決意させた奥様のひと言

古い町並みが残る東城町の「上之町通り商店街」。ここに、ちょっと珍しい“草花が揃うフラワーショップ”と“地元の人もくつろぎに訪れるカフェ”が一緒になった「hanatojyo」があります。店主の山岡さんは東城生まれの東城育ち。高校に進学する際に東城を離れ、姫路の大学へ。そして姫路市で葬儀専門の生花を装飾する会社に就職しました。就職先では花祭壇のデザインから提案、装飾、アレンジまで幅広く担当。「ここで10年間キャリアを積んだら、花屋として独立したいと思っていました」と山岡さんは話します。在職中にフラワー装飾1級技能士の国家資格も取得し、独立に備えてきました。一番頭を悩ませたのは店を出す場所。それまで暮らしていた姫路市のような都会にするか、故郷・東城のような田舎にするか。背中を押してくれたのは奥様の「東城にしたら?」というひと言でした。「東城に家族みんなで帰省した時、友人や知人の方と主人が触れ合っているのを見て、とても愛されていると感じました。ライバル店が多い都会で埋もれてしまうよりも、地元でキラリと光る店にした方が良いと思ったんです」と奥様。店をオープンする場所を探していた時に、昔山岡さんが散髪していた理髪店のおじちゃんと偶然出会い、東城の地域振興の立役者・木村さんを紹介してくれました。木村さんが商店街にある町屋の大家さんへと繋いでくれたからは、多くの協力を得て、あれよあれよという間にオープンへとこぎつけました。

子どもの頃に感じた地域の人の温かさは今も健在 その優しさに応えられる「愛される店」になりたい

町屋は築100年の古民家。土間と居間に大きな段差を設けた昔ながらの間取りを活かして、土間部分を花屋に、居間部分をカフェに改装しました。カフェを訪れた人にも、花に興味を持ってもらえるように工夫した造りになっています。花屋には見たこともない花やグリーンがずらり。「ふらりと訪れた年配の方も、ワクワクしたお顔で花に目を向けられています」と山岡さん。カフェは幅広い世代の方に訪れてほしいとの想いから、飾らない純喫茶をイメージしました。ナポリタンやエビピラフなどの定番メニューからオリジナルのタコライスまで、バラエティ豊かなメニューが揃います。2018年7月にオープンしてから早1年。「地域みなさんに受け入れてもらっていると感じています。子どもの頃に感じていた人の温かさはあの時のまま。これが故郷で店を開こうと決めた要因であり、ここで店を続けていけるという強みにもなっています」。山岡さんの夢は、お店が東城を代表する店の一つに挙げられるような愛される存在になること。「『あそこのマスターがめっちゃええんよ』と言ってもらえるようになったら最高ですね」と笑います。



- 1.本場とは一味違うタコライス(650円)。醤油やみりんを使い、スイートチリソースで仕上げたオリジナル
- 2.「まちのために使ってくれるなら」と破格で譲り受けた町家。古き良き日本の文化を感じさせてくれます
- 3.目新しい草花が空間一杯に広がるフラワーショップ。山岡さんのセンスが光るアレンジメントも人気です
- 4.山岡さんと奥様の恵さん。5歳になる息子さんもすくすくと元気に育っています

Question
子どもの遊ぶ場所がなくて
不便じゃないですか?

あなたの疑問に答えます

Answer

確かに鉄棒や滑り台などの遊具がある公園はありませんが、大きな広場で遊ばせたい時は、近くの小学校の校庭などを利用してはいます。5歳でもガンガン自転車に乗りますし、近所のおばちゃんの家で遊んだりもするんですよ。町自体が遊び場みたいなもんです。イベントがある時には、家族で備北丘陵公園に出かけたりもします。



Story 2

「自分らしく生きること」が
ここでなら実現できると確信



1. 西城小学校の渡辺校長は松井さんが6年生の時の担任。月日を感じさせないお二人のやりとりに、なんだかほっこり
2. 二人のお子さんは、松井さんのおばあちゃんと実家の畑でトマトを収穫。冬には雪遊びも満喫しています
3. 子どもたちが自分が行きたい国について考え、食べ物や観光などについてまとめたポスター
4. 高小学校の児童のみなさんと松井さん。みんな楽しみながら英語を学んでいます

自分のため、子どものために Uターンすることを決意

西城小学校や高小学校など市内5つの小学校で英語を教えている松井さん。英語が好きだったことから、広島市内の国際科がある高校に進み、関西外国語大学に進学しました。最初に就職したのは海外旅行専門の旅行会社。旅のプランニングや航空券の手配などの業務を5年ほどこなし、その後、外資系航空会社のキャビンアテンダントに転職。結婚し1人目のお子さんを生んだ後も両親やご主人の協力のもと仕事を続けていましたが、2人目のお子さんを妊娠したのを機に退職。「フライトに出れば数日は帰れないこともしばしば。働くことに限界を感じてしまいました」と松井さんは振り返ります。初めての専業主婦、24時間お母さんという立場になって、「自分らしく過ごせていないなど感じ、いつか生まれ育った町のことを考えるようになっていました。子どもを連れて帰省すると子どもも自然の中でイキイキ。こんな環境で子育てがしたい、これまで応援してくれた両親に恩返しをしたい。そんな気持ちが日に日に膨らんでいきました」。元々アクティブな松井さんは、資格さえあれば仕事には困らないと考え、独学で保育士の免許を取得。Uターンしてしばらくは市の嘱託員として勤めていましたが、小学校に英語教育が導入されたのを機に英語指導者という道を選びました。「誰かに喜んでもらえる仕事、誰かの力になれる仕事。それに+語学が活かせる仕事をしたいと思っていました。今この仕事に携われることは本当に幸せ」と話します。

英語を学習することで 子どもたちの未来の選択肢を広げたい

ゲームや歌を取り入れて、子どもたちが楽しみながら英語を学べるように工夫している松井さん。コミュニケーションやスピーチ、グループディスカッションの時間を設けた参加型の授業を心掛けています。「これからはコミュニケーションをとるためのツールとしての英語、自分を表現するための英語が必要になる時代です。子どもたちに必ずしも英語を使う仕事に就いてほしいという訳ではなく、それぞれの夢を叶えるために英語が少しでも役に立って、未来の選択肢が広がればいいなと思っています」。さらに「私にとって子どもたちは『どんなふう成長していくんだろう』と想像力をかき立てられる存在。その成長に携われていることを誇りに感じます」と松井さん。プライベートでは小学校2年生の男の子と6歳の女の子のお母さん。「子どもが小さい時、自然を怖がる姿を見て危機感を感じたのもUターンの一因。今では祖母と畑仕事に行ったり、川で遊んだり、カブトムシを捕まえたり、すっかり田舎の子になりました」と笑います。「帰ってきてよかった!」。その言葉から、松井さんの今の暮らしがとても充実していることがうかがえました。

小学校英語指導者

松井 理恵さん
Rie Matsui



あなたの疑問に答えます
都会に比べると
いろんな面で
選択肢が
少ないですね?

確かに選択肢は少ないです。
今思えば大阪で暮らしていた時は、逆に選択肢がありすぎて困っていたような気がしますが、遊ぶところもたくさんありますが、あるがためにわざわざ遊びに出て無駄に疲れていたような…。選択肢が少ないということは一見不便に感じますが、ある意味無駄がなくていいのではないのでしょうか。



Story 3

若い世代や家族連れが満喫できる
+αの楽しさを提供したい



長曾 観光りんご園

長曾 勇樹さん
Yuki Nagaso

Data
長曾観光りんご園
ながそかんこうりんごえん
〈住所〉
庄原市高野町下門田267
〈TEL〉
0824-86-2186

毎年異なる自然環境の中、 美味しいりんご作りを目指して日々奮闘

長曾さんは祖父母の代から続くりんご園の三代目。庄原実業高校を卒業後、長野県の農業大学校内にある果樹試験場で2年間、果樹の栽培に関する知識と技術を学び帰郷しました。3人兄弟の一番上ということもあり、家業を継ぐということに疑問を抱いたことはありませんでしたが、農業の楽しさを感じ始めたのは高校生の時の体験。長曾さんは、「世話をやけばやくほど美味しくなって、いいものができる。自分たちで栽培したものを校内やイベントで直売して、消費者の声を聞いたこともいい経験になりました」と話します。「祖父や父の代より美味しいものを作りますよ!」。そう話す長曾さんは、頼りになる三代目の顔をしていました。9月から11月頃までの収穫時期以外にも、摘花、摘果、葉摘み、剪定など、1年を通して忙しいりんごの栽培。どれも知識や経験を要し、それ次第でりんごの出来が変わります。「自分でコントロールして、いい樹、いい実ができた時が最高にうれしい瞬間」と笑みを浮かべます。そんな長曾さんをサポートしているのは、1年前に広島市内から嫁いだ真奈さん。最初は環境の違い過ぎる田舎暮らしに戸惑いながらも、



1.長曾さんと奥様の真奈さん。「MT免許を取る時には、主人も練習に付き合ってくれました!」と真奈さん
2.りんごの種類によって味はもちろん、色や香りも異なる生しぼりジュース。おすすめの品種はジョナゴールド
3.寒暖の差があればあるほど、赤く色づくりんご。今年も手塩にかけて育てています
4.長曾さんのおじいさんとおばあさんが世話をしている畑。寒暖の差が激しく、おいしい野菜も育ちます

「プラネタリウムのような美しい星空やホテルが家の周りを幻想的に飛び回る風景は、ここに来なかつたら出会えなかった景色♡」と田舎暮らしを満喫中。結婚を機にMT免許を取得し、最初は苦勞したミッションの軽トラも今ではガンガン乗りこなす、頼もしい存在です。

定番の観光農園に新しい風 搾りたての100%ジュースが好評

高野町のりんごは広島市内では“幻のりんご”と呼ばれ、最近では遠方からも多くの人が直売所に訪れるようになりました。「直売所は直接消費者の声が聴ける貴重な場所。約20種類のりんごを栽培していますが、どんなりんごでどんな特徴があるか、直接伝えられるのもいいですね」と長曾さん。2年前から、家族連れや若い世代の人たちにも直売所を訪れてほしいと、ジュースを導入し、収穫したてのりんごをその場でジュースにする生しぼりジュース(200円)の販売をスタートしました。りんごを丸々1個搾った100%ジュースは子どもたちにも大好評。そのまま食べるよりも甘味が増した濃厚な味わいが楽しめ、品種によっても多彩な風味を堪能できます。味わえるのは収穫時期の9月から11月頃まで。「若い人があまり果物を食べなくなったと聞きますが、どうすれば若い世代の人たちに来てもらえるかを考え、体験型の仕組みを作っていきたい」と長曾さんは目を輝かせます。FBなどSNSでの情報発信にも積極的。「町を元気にするために、たくさんの人を呼び込みたい」。長曾さんの挑戦は始まったばかりです。

Question
あなたの疑問に答えます
普段の買い物って
どうしてるんですか?

Answer
近くにコンビニエンスストアや大型スーパーはありません。米や野菜は自分たちで育てたものがありますし、ご近所さんからもいただけます(笑)。新鮮で美味しい食材には困りません。どうしても必要なものは三次市の大型スーパーでまとめ買いしています。業務用の冷蔵庫は必需品ですね。



Story 4

ヤギが庄原市を救うかもしれない！ ヤギで儲かるビジネスモデルを構築中

除草、防災、景観維持、鳥獣被害防止… ヤギって実はすごい動物!?

畜産技術センターに勤め、牛の管理や研究補佐をしている入瀬さん。ただいま育休中で、3歳の女の子と9ヶ月の男の子の育児に奮闘しています。入瀬さんのもう一つの顔が2013年に仲間とともに立ち上げた“ヤギネットワークひろしま”のスタッフ。ヤギの飼育方法や困りごとの解決など、ヤギに関する情報を提供しています。きっかけは同年、毎年持ち回りで開催されている全国ヤギサミットが広島で開催されたこと。それ以降、ヤギの有識者などを迎え、ヤギ愛好家の人たちと共催で“やまなみヤギサミット”を毎年開催しています。ヤギの魅力って何なのでしょう？「ズバリ、ヤギが世界を救います」と入瀬さん。ヤギは人間が食べることのできない雑草を栄養に変えることができる動物。その特性を活かし、放置された田畑をよみがえらせるというのです。「耕作放棄地になる田畑は、重機が入れない山間が多いんです。そこにヤギを投入して除草を行えば、美しい里山の風景を取り戻し、鳥獣被害も減らせる。さらに保水効果が高まり防災にも役立ちます」と力を込めます。現在、川北町の田の平地区で実証実験を兼ねて、3匹のヤギをレンタル中。「ヤギを使った除草は、アルプスの少女ハイジでいうところのペーターのような役割の人も必要なわけです。様々なメリットにプラスして、さらに雇用まで生まれるというなんて素敵システム。ヤギが庄原を救うかもしれません!」とヤギ愛たっぷりに語ります。



ヤギネットワークひろしま

入瀬 瞳さん
Hitomi Irise



ビジネスモデルの構築は 若者を流出させないためにも必要なこと

最終的な目標はヤギによって地域にお金を生み出す仕組みづくり。利用者に販売したヤギが草を食べて大きくなったら、ヤギネットワークが譲った価格よりも高く買い取ることで利用者に利益を生み出し、そのヤギを食肉として販売することでヤギネットワークにも利益が生まれます。2017年に開催されたやまなみヤギサミットでは、試験的にヤギ肉のフルコースが振る舞われ、評判も上々でした。入瀬さんは現在、肉を安定供給するための研究に励んでいます。「除草、防災、景観維持など、まだまだヤギの可能性は無限大。ヤギを使ったビジネスモデルを構築してみせませう」と意気込んでいます。儲かる仕組みづくりにこだわるのは、これから先もずっと高町で暮らしたいという想いから。「お金があれば、わざわざ仕事をするために町に若者が出ていく必要がなくなると思うんです。子どもたちが大きくなった時に、どんな選択をするかは分かりませんが、高町で暮らすという選択肢を残してあげたいんです」と話します。育休は9ヶ月のお子さんが1歳になるまで。間もなく、2足のわらじの入瀬さんの、忙しい日々が始まります。

- 1.家の敷地内でもシンくん、カイくん、アオちゃんの3頭を飼育中。繁殖も行っています
- 2.やまなみヤギサミットで振る舞われたヤギ肉を使った料理。赤身でヘルシー、安心安全なお肉です
- 3.ヤギに関する専門書や報告書で、日々ヤギについて勉強しています
- 4.入瀬さんの生まれ育った家に、ご両親とご主人、2人のお子さんとともに暮らしています

Question
雪が降ると
嫌になりませんか？

あなたの疑問に答えます

Answer

除雪はかなりの重労働です。高町はかなり積もるので避けて通ることはできません。私の場合、除雪作業は筋トレを兼ねています。わざと長い時間かけて除雪してカロリーを消費。太りやすい冬になんと**3kgも痩せる**んです。不便なことも楽しみながら取り組むことが、田舎暮らしを楽しむことに繋がるかもしれません。

古川さん 庄原って遊ぶところがないっていうけど、土日はみんなどこで遊びよるん？うちは、備北丘陵公園の無料エリア「ふらり」とかひだまり広場(子育て支援センター)に行くぐらい。

山崎さん 子どもが小さい時はひだまり広場ばかり行ってたけど、最近は近所の子とも遊びたがようになってきた。

松田さん うちは3人連れてどっか行く元気ない(笑)。家の畑が広いからひたすら虫捕まえて遊んで。子どもは基本的に虫網さえあればどこでも遊べるよね。

古川さん いつも遊ぶ人を求めて外を彷徨ってる(笑)。

山崎さん 近所の田んぼのあぜ道を駆け回ったり、側溝でザリガニやイモリ、カエルを捕まえたり。自然と触れ合いながら遊べるのが嬉しい。

藤本さん 整えられた遊び場っていうのは少ないけど、ここじゃないとできん経験って貴重よね。

古川さん いい大学に入ればいい企業に就職できる学歴社会も終わって、AIもどんどん進化してる。これからは人間力を育てる子育てをしていきたい。イレギュラーなことに対応する力って、自然の中から学ぶことが多いんじゃないかな。

藤本さん ハウツーが通用しないのが自然の中での遊び。自分で判断しなければならぬことも多いから。この環境を活かして強くたくましい子になってほしいな。

山崎さん 庄原は虫が多いけど、ゴキブリ見んよ？ 大分の時はバンバン出よったけど。

松田さん 確かに!寒いからかな? なんにしてもありがたい(笑)。

古川さん はっとうじの数は尋常じゃないけどね(笑)。

松田さん はっとうじはお酢を入れた瓶を近づけると自分から入ってくるよ。近所のおじさん直伝の退治法。

藤本さん 虫の話、多くない?(笑)。庄原って子育て関係の事業も充実してるよね?

古川さん 不妊治療した時の助成金とか出産祝金とか、いろいろもらえるよね。お金の支援は単純にうれしい。保育所も学童保育も基本的に入れる。青森、栃木、大阪にも住んだけど、庄原の人は温かいよ。ぎゃん泣きした子ども外であやしたら、近所のおばちゃんがおもちゃ持って飛び出てきてくれる(笑)。

藤本さん 近所のおばちゃん、店のレジの人、看護師さん、みんな優しくて安心するよね。

古川さん 母が和歌山から来たとき「知らん人なのに普通に話しかけてくれた」ってびっくりしながら「なんかええなあ」と言ってたのを思い出す。

松田さん 地域の人との距離感が近いよね。みんなで一緒に伝統行事の大花田植えをしたり、小学校の運動会は町民運動会になって地域の人も参加する。楽しむことをみんな共有できるのって、やっぱりいいな一って思う。

古川さん 宅配便のおっちゃんも距離感近い。顔見知りになったら「今日おる?おらんのん?」って直接電話してくるし(笑)。

山崎さん 子連れだから行きにくいっていうお店もないよね。都会の密集地で子育てすると気を使うことも多いかもしれないけれど、どこか心に余裕がある感じはするね。

古川さん でも正直、子育て支援センターでみんなと出会わなかったら、私今頃、鬱やな。

松田さん 子育て支援センターは、遠足とかミニ運動会とか、お楽しみ会なんかの行事もあるし、子育てサークルも活動

しているから行きやすかった。いつも同じママに会うから、自然と仲良くなれるよね。

藤本さん 近所に年配の人はいっぱいおるけど、同世代の友達ができるのは大きいよね。

山崎さん 聞いてもらえるだけで救われることもたくさんあった。みんなで助け合いながら子育てしている実感が持てて、ひとりですべてやってるんじゃないと思えるんよ。

藤本さん 「ママ友は怖い」という世間のイメージだけで、外の世界に出るのはもったいないよね。よく聞くボスママとか見たことないもん。

古川さん 頼り過ぎず、頼られ過ぎず、いいバランスで成り立ってる。戦友って感じだね。

藤本さん ママたちのパワーは凄い。去年、先輩ママグループたちが立ち上がって小児科を新しく誘致した。それまでは、日赤病院しかなくて、待ち時間も凄く長いし診察も16時まで。学校が終わってから連れていってほぼ不可能。水曜の午後

は休診だし。

古川さん とにかく子どもの病院は苦労したね。

松田さん 小児科の負担を軽くするために新生児を診てくれる産科も復活したし、病児保育もできた。

山崎さん 先輩ママたちが声を上げて、私たちも署名活動したり市議会を傍聴しに行ったりして、活動に参加させてもらった。ママたちの声で子育て環境を改善させることができるってすごいことよね。

古川さん 議会を傍聴した時には、市長が市長室に招いてくれて直接、要望を聞いてくれたよね。

山崎さん そういう意味でも庄原市は自分たちの意見が言える子育てしやすい町と言えるんじゃないかな。

古川さん 田舎だから学校とか習い事とか、買い物する場所とか、いろんな面で選択肢は確かに少ない。でも田舎暮らしをチャンスと受け止めて前向きに捉えれば、都会ではできない子育てのメリットもたくさん感じられるんじゃないかな。

[制度] 子育て支援センター

子育てで家庭や地域の方が気軽に集い交流できる場です。子育てに関する相談、情報提供、子育て家庭の友達づくりや交流の場の提供、子育てサークルの活動等を支援します。



[制度] 出産祝金

新生児が出生した日以前に1年以上庄原市に居住し、さらに1年以上居住する意思のある保護者に支給します。第1子、第2子は15万円、第3子以降は25万円を支給します(令和元年8月現在)。その他の条件あり。



ママたちの本音座談会

市外で生まれ育ち、庄原で子育てをしているママたち。彼女たちに庄原市の子育て事情はどう映っているのでしょうか。子育て支援センターで出会った仲よし4人組が、子育てについて本音をぶちまけます。



山崎 さつきさん

大分県出身。子どもは小学校1年生と4歳、やんちゃ盛りの男子が2人。結婚を機に庄原へ

松田 香さん

安芸郡熊野町出身。安芸郡熊野町出身。小学校1年生、4歳、2歳、3児のママ。結婚を機に庄原に移り住んで7年

藤本 貴子さん

兵庫県出身。結婚を機に庄原に来て12年。小学校4年生と小学校1年生男子の育児に奮闘中

古川 桂さん

和歌山県出身。ご主人の転勤で庄原へ。小学校1年生の娘さんと3歳の男の子のママ

虫網さえ持って出れば家の周りは全部遊び場

学校では学べないことも自然の中から吸収中

ママたちが団結した時の底知れぬパワーが凄い

地域の人との距離感が他の市町に比べて圧倒的に近い

庄原にだってフレッシュな若者はいっぱいいます!
仕事を感じる魅力ややりがいはひとそれぞれ。
「どんな時に幸せを感じるの?」「仕事の原動力は?」
楽しみながらイキイキと働く3人の若者に聞きました。



入社
4
年目
特別養護老人ホーム
ハビネスビル
介助員
山岡 弘司さん
Hiroshi Yamaoka

今年も資格取得にもチャレンジ 自分の意志でステップアップ

利用者の生活全般をサポートする介助員をしています。おじいちゃんやおばあちゃんに「ありがとう」と言ってもらえることがやっばりうれしい。今年も、3年の実務経験と研修を受講すると受験できる介護福祉士やケアマネジャーの資格にもチャレンジする予定。自分の意思でステップアップできる環境です。職場は家から車で5分ほどの場所にあつて、趣味や遊びの時間もたっぷり。友達もたくさんこっちにいるからプライベートも充実しています。



地域の人にそっと寄り添い 気軽に声を掛けてもらえる身近な存在になりたい

JAの窓口で、お客様に金融商品をご紹介する仕事。お客様にはご高齢の方も多いため、できるだけ分かりやすく丁寧に接することを心掛けています。「こんな風に話した方が伝わりやすい」とか「ここは強調しないと誤解されるかもしれない」とか、常にベストな伝え方を考えています。目標は「西口くん」と気軽に声を掛けてもらえる存在になること。一度故郷を出たからこそ分かった地元の人々の温かさに今度は僕が応えていきたいです。



入組
2
年目
JA 庄原東城支店
窓口担当
西口 雅浩さん
Masahiro Nishiguchi

困難を乗り越えた時の充実感は一とお 日々自分の成長を感じています

新商品の開発や既存商品のリニューアルなどを先輩方と一緒に手掛けています。リニューアルを担当したアップルパイを「今まで食べた中で一番おいしかった」とお客様に褒めてもらえた時は心の中でガッツポーズ(笑)。大学在学中に取得した管理栄養士の資格を活かせる今の仕事が好きです。今は雪室じゃがいもを使った新しいお菓子作りに挑戦中。開発から製造、パッケージデザイン、販売まで広く携われることは、絶対にいい経験になります。



入社
5
年目
道の駅たかの
飲食グループ菓子工房
渡邊 詩織さん
Shiori Watanabe

[制度] 就職に関する情報発信

庄原市では、「庄原でいきいき働く協議会」と連携して、地元での就職情報を発信します。詳しくは、「庄原でいきいき働く協議会」のホームページをご覧ください。



[制度] 帰ろうや倶楽部

会員になると、庄原市の企業や団体等から庄原市で暮らすために必要な情報が定期的に届きます。



なんよっ!
庄原だけ
それ
庄原あるある
みんなも「#庄原あるある」でSNSに投稿しよう!

庄原で生まれ育った人にとっては一般常識でも、一歩市外に出ると通じなかったり、驚かれたりした経験はありませんか? そんな、庄原でしか通じないローカルネタ集めました。

「ええしこ」「びっちゃこ」
「あーにい」「こーにい」など、
通訳が必要な言葉が多数あり

二次会は
スナックになってくる

汽車は一両編成が当たり前

校内雪合戦大会は 恒例行事

雪が降ると高野町が
全国ニュースに登場

渋滞はイルミネーションの期間だけ

大皿で出てくる

漬物は

「はっとうじ」の多さが尋常じゃない

星空がきれい★

軽トラがあったら便利

広島高速4号線の長いトンネルを抜けると都会の風景にテンションが上がる

おばあちゃんには新品のことを「サラ」と言う

女子は成人式に振り袖ではなくドレス

「クマ鈴」を全校生徒に配布

ワニを食べるのは全国的にみると普通じゃない。そしてワニはワニじゃない。サメ。

帰りたくなったら

Uターン・Iターン

住まいのこと、仕事のこと、何でも相談

移住・定住トータルサポート窓口

庄原市 企画振興部 自治定住課

〒727-8501 広島県庄原市中本町一丁目10番1号

☎ 0824-73-1257

(平日8時30分~17時15分)

✉ teiju@city.shobara.lg.jp

こちらから»



🌐 <http://www.city.shobara.hiroshima.jp/>